

学校問題の未然防止と早期解決に向けて、PTA活動に長年携わった立場から、学校と保護者と双方へのメッセージをいただきました。

### <学校と保護者との関係をどう捉えるか>

近年、価値観の多様化・変化なのか、または世代の特徴なのか、学校と保護者とのトラブルを多く耳にします。大多数の保護者は、教師に感謝し信頼しつつ、自らも共に子供の教育にあたる姿勢でいますが、学校教育は教育サービスの一環であり、「教師を評価し改善を要求すべきだ。」との主張をもつ保護者もいます。また一方で、「先生に何か言うと、子供に影響があるかもしれない。」とおびえる保護者もいます。

課題や問題がないのがよい学校ではありません。課題や問題を「いかに解決していけるか」が問われるのです。学校と保護者との真のパートナーシップの基本は、「対等・信頼・責任」をもち合うことです。両者が互いの違いを受け入れ、特性を生かし合い、立場を認め合いながら相手の視点に立つということです。自分の利だけを通しては関係づくりはできません。

### <学校の先生方に伝えたいこと>

どんな保護者も子供を愛しています。往々にして、保護者は理屈より感情でものを言い、自分の子供だけしか視界になく、子供の言い分だけを信じていることがあります。子供が家庭で見せる内なる個の顔と、学校で見せる外での集団の中の顔とが全く異なることが理解できない場合もあります。

学校の教育方針や指導に反発する保護者の心の奥には、保護者自身の「認められたい」という気持ちもあります。子供への評価が即親としての自分の評価であると捉えるがゆえに、自己防衛的になりがちです。情報の不足から学校への不信・不安をもったり、支え合う保護者同士のつながりが薄かったりする場合はなおさらです。

保護者が「つらい」「悲しい」「納得できない」と訴えてきた際は、まず学校側の説明をする前に、「保護者がそう感じているという事実」を否定せずに、「そのように感じているのですね。」と受け止めてください。そして、保護者がたとえ理不尽な理屈であっても、子供のために親として一生懸命であるという事実を認めることで、説明や話し合いの円滑さが異なってきます。何より教師の「その子供への理解を深め、その子のために真摯に取り組む姿勢と熱意を、保護者に言動で示すこと」が最善の処方箋となるでしょう。

### <保護者に伝えたいこと>

学校は、学力を身に付けさせるのみならず、人格形成を含め、社会で生き抜く力を育てる社会化の過程を担う場です。教師は、子供が保護者以外に深く関わりをもつ初めての大人でもあります。保護者の教師に対する期待は高く、能力的にも人格的にも教育に対する姿勢も、尊敬でき信頼できる存在であることを求めるのも当然です。子供と友達のように迎合する教師は本当は必要ありません。子供が教師への畏れと尊敬の念をもって初めて、教育が成り立つと考えます。

保護者が教師の悪口を子供に聞かせることは、教育の成果を自ら低下させるのと同じです。また、保護者が学校教育の場に、経済の論理や私的な利害をもち込んではいけません。教師は、児童・生徒個人を、集団や全体の関わりの中から様々な側面で見えています。教師は意欲と愛情をもち、利潤や成果を超えた人間教育に当たっています。子供の一生をも左右する役割を担っているという自負も責任も自覚しています。

教師と保護者の両方の視点と様々な角度から子供を見つめ、家庭でも学校でも同じことを子供に伝えていく努力が最も大切です。